

図書館の窓から



2013.10 No.142



山古志の石仏「不動明王」 鈴木 孝枝／手漉き和紙にプリント

【特集記事】

- ◆私の一冊 gallery artbookchair 代表 酒井実通男 さん 3p
- ◆郷土資料紹介 民俗研究者 水澤謙一をPick Up 4～5p

館長通信

～ 収集方針とリクエストサービス ～

平成25年4月1日現在の長岡市立図書館の蔵書数は、8万6千377冊です（前年度比1.5%増）。内訳の上位は、文学の約26万冊、絵本の約8万5千冊、郷土資料の8万2千冊となっています。

これらの蔵書は、中央図書館が購入したり、寄贈を受けたりしたものです。どのような本を揃えるかは、毎週月曜日に開催している司書による選書会議で選定し、館長が決定しています。

収集方針（選定基準）は、そ

れぞれの図書館で異なっています。歴史や文化といった地域性を踏まえ、特色ある図書館づくりを考えているからです。

一方で、利用者の皆さんが図書館でどんな本が読みたいか（借りたいか）という声も大切です。そのために図書館ではリクエストサービスを行っています。その内容は、予約、購入、借用（図書館間相互貸借を活用）からなり、購入の希望は、図書館にある「リクエストカード」に記入の上、お申し込みいただけます。購入希望の

本を蔵書とするかどうかは、選書会議で検討します。7月は295点のリクエストがあり、213点（約70%）を購入しました。

利用者の思いを踏まえ、内容を吟味して行うリクエストの検討も含め、資料選定の作業は、図書館職員の見識が問われるものであるといえます。

（金垣 孝二）



文書資料室だより

歴史資料所在確認調査と地域史料の保存

文書資料室が中越大震災発生をきっかけに取り組んでいることの一つに、歴史資料所在確認調査があります。昭和後期から平成期にかけて、県内各市町村で自治体史編さんが行われ、大勢の所蔵者の皆様が編さん事業に協力されました。しかし、編さんから10年以上が経過し、代替わり・家の建て替えや水害・震災などにより、地域史料（地域に伝えられて、その歴史を記録した歴史資料）の散逸が懸念されています。調査の目的は、その現状を把握し、保存のためのネットワーク作りにあります。

歴史資料所在確認調査は全市域を調査範囲として、毎年、計画的に実施しています。平成24・25年度は新潟県立文書館と共催で、越路地域を対象

に行いました。『新潟県史』『越路町史』や旧越路町教育委員会発行の文化財調査報告書の調査先を中心に、2年間で約30件の所蔵者を訪問。地域史料を保管する土蔵や家屋に入れていただき、伝存経過や概要を記録し、越路町史編さん時に作成した目録との照合作業などを行いました。調査では、区有文書（町内会保管の地域資料）の保存に課題があることもわかりました。

地域史料は、それらを大切に伝えてきた先人の努力を尊重し、郷土の歴史を物語る文

化遺産として今後も保存・活用していく必要があります。文書資料室では、調査先に機関紙「長岡あーかいぶす」を定期的に送付したり、所蔵者向けの歴史資料保存講座を開催したりするなど、地域史料の保存・活用に向けた協力関係の構築に努めています。

古文書や戦前の雑誌・新聞・写真などの資料保存や整理・管理方法に関する相談も受け付けています。お気軽にご連絡ください。（田中 洋史）



◀地域史料を保存する土蔵

火災に強い土蔵は、昔から古文書などの保管場所に使用されました。この土蔵は、所蔵者が家に伝わった資料を大切に保管したいと考え、中越大震災直前に補強工事を行ったことで、地震の被害を免れました。

私の一冊 私の一冊

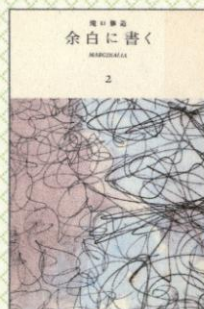
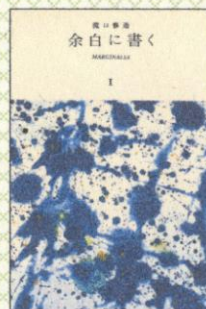
gallery artbookchair

代表 酒井実通男さん

「人は薄明のうちに、謎とともに生まれる。もしも運命という石が見出されたとしたら、人はそれを限りなく透明になるまで、飽くことなく磨きつづけることだろう。ある人にとって、絵を描く行為は、このような薄明のなかから生まれるのだ。その種子は無心の巣のなかで芽生え、やがて運命の樹として繁茂するだろう。この薄明のなかで、謎は何を囁くだろうか。」(本書「2」の54ページより引用)

この本は、普通に考えて、普通に読書される方の愛読書ではないのである。と、断定しても誰からも否定されない、と思う。この本は余りにもジャーナリズムからかけ離れた、著者の私的通信や、ごく私的な展覧会カタログのための短文を集めた、言ってみれば私的文章の集積に過ぎないのである。そして正に「流通価値のないものを、ある内的要請だけによって流通させ」(本書「1」の137ページより引用) なければならないという出版社 みすず書房の「内的要請」によって出版されたのである、と思う。そしてそのお陰で僕は、冒頭に掲載した言葉に出会うことができたのである。

滝口修造 (1903-1979) は詩人であった。詩人はまた、ジャンルを問わず無名の芸術家のバックボ



『余白に書く MARGINALIA 1・2』

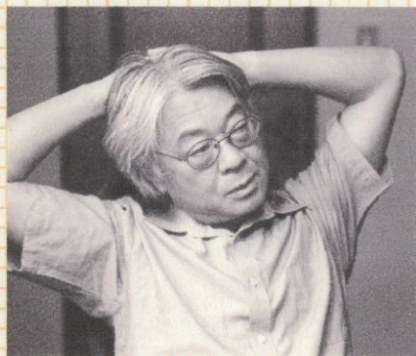
滝口 修造 / 著 みすず書房 / 発行

ーンでもあった。詩人は生涯、在野の住人であった。請われてさえも在野にあり続けたのだった。滝口修造という詩人の眼差しさえあれば、芸術を志す者は自分自身を「磨きつづけること」ができたのである。

人はなぜ本を書くのか。なぜ出版しようとするのか。そして人はなぜ本を読まなければ生きて行けないのか。そうは言っても謎が謎であり続ける限りは、人生というものが未だ薄明の中にある限りは、人は本を読むのである。しかし本を読む僕は、何を読んでいるのだろうか。言葉や知識をか？ またはロマンのようなものをか？ 喜びや悲しみの共有か？ または… 幸、不幸を分かち合うため？

だが、世界は余りにも「流通価値」あるものに満ち満ちている。そうしてそれらは、光陰の如く余りにも早く「流通価値」を喪失して行くのである。空と大地の間に佇んで、運命の果てしない謎を考える時、「流通価値」とは一体なんだろう！

人もその一部になってはいないだろうか！ 本の中には言葉があり、言葉の中に煌く石がある。僕は、「内的要請だけに」によって「運命の石」といつかめぐり合いたい、と願う。そして自分にその意志さえあれば、磨きに磨くことができるのである、と思う。その時、「内的要請だけに」による読書がひとつの研磨材であれば嬉しい。(了)



酒井実通男 (さかい・みちお)

1952年12月栃尾市(現長岡市)生れ。中央大学理工学部卒。エンジニアとしてサラリーマン生活続ける傍ら、2004年7月東京・目黒に“gallery artbookchair”を開設。2008年6月Uターン。2013年3月、「本のある空間作りをお手伝い」するサロンの雰囲気を持つ週末営業(金・土・日)の画廊“gallery artbookchair”(ギャラリー・アートブックチェアー、絵画・古書・椅子の販売)を開業する。

水澤謙一の世界

プロフィール



水澤 謙一
(1910～1994)

新潟県内の各市町村史編さん事業に参加し、消えゆく昔話などの口頭伝承の保存に尽力しました。

水澤謙一は、1910（明治43）年、古志郡栖吉村大字成願寺（現長岡市成願寺町）に生まれました。

1929（昭和4）年に新潟師範学校を卒業した後、教職に就き、地方に伝わる昔話が消えつつあると感じ、昔話の採集を始めました。その後、多くの研究が評価され、新潟県文化功労賞や柳田国男賞等を受賞しています。

また、民俗研究者として新潟県史及び



水澤謙一が採集した昔話の原稿▶

読んで

聞いて

水澤謙一の昔話に触れる

視聴覚資料

『水澤 謙一採集昔話』1～100（CD）

下條 登美 ほか／語り 長岡市

昭和40年から63年にかけて、水澤謙一が語り部から実際に採集した録音テープを編集・制作した貴重な資料です。素朴な方言で語られる昔話は、言葉のもつ美しさを感じることができます。耳で聞く昔話の魅力をご堪能ください。

●他にもあります●

『とんと昔があったけどー越後の昔話ー』水澤 謙一／編 未来社

『雪国の世語りー越後の昔ばなしー』水澤 謙一／著 野島出版

『あったてんがな』水澤 謙一／著 野島出版

ほか多数

昔話との出会い

39歳の時に古志郡富島小学校校長に就任。ここで『富曾亀郷土誌』の編集依頼を受けます。完成した『富曾亀郷土誌』を、尊敬する民俗学者の柳田国男に送ったところ「昔話がとても良い」との激励の手紙が届き、昔話の研究に一生を捧げる決心をしました。

カタリバサとカタリジサ

昔話の語り部の多くは女性の「カタリバサ」で、男性の「カタリジサ」はわずかでした。中には300話以上の昔話を語る人もいたというから驚きです。謙一はこのような語り部を訪ね歩き、時には同じ家を何度も訪ねて、丁寧に昔話を採集しました。

物語を彩る挿し絵

著書の中には、『あったてんがの 水澤謙一の昔話の世界（長岡市史双書No.29）』の表紙と挿し絵を描いた住職であり絵本作家でもある諸橋精光さんや、『あったてんがな』等の挿し絵を担当した切り絵作家の真島若桜さんなど、長岡ゆかりの作家によって挿し絵が描かれたものもあります。温かみのある挿し絵が、語り継がれてきた昔話の世界をより一層引き立てます。

現在も語り継がれる物語

「長岡民話の会」によるお話し会（毎月第2日曜日 西地域図書館にて開催）でも、水澤謙一採集の昔話を取り上げています。また、語り部による昔話の語りをCDで聞くこともできます。方言で生き活きと語られる昔話をぜひ味わってみてください。



▲語り部から昔話を聞き取る水澤謙一
写真提供：水澤一郎氏

関連図書



『越後の民話』第1集・第2集

水澤 謙一／編 未来社

新潟県内から採集した昔話とわらべうたを収録。世界の昔話と類似した物語があるという点には、昔話の不思議さを感じます。



『さんまのおふだ 新潟の昔話』

水澤 謙一／再話 梶山 俊夫／画 福音館書店

昔話の中でも人気のある物語の絵本です。少し怖いストーリーも、越後の方言で読むとどこかユーモラス。大人も子どもも引き込まれる1冊です。



『あったてんがの 水澤謙一の昔話の世界 長岡市史双書No.29』

長岡市史編集委員会／編集 長岡市

挿し絵を交えた昔話集に始まり、生い立ちや研究成果まで、この1冊で水澤謙一を丸ごと知ることができます。

インターネット

長岡市の情報を発信するサイト「e-ネットシティながおか」内のコンテンツ「ながおか web 再発見」から、昔話を視聴することができます。

〔ながおか web 再発見〕

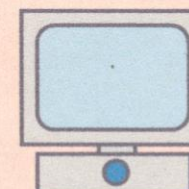
<http://www.e-net.city.nagaoka.niigata.jp/hakken/>

長岡市のホームページからも
アクセスできます

●イラストレーションとテキストで紹介する長岡の昔話

●語り部による昔話の音声データ

●語り部 下條登美さんの昔話の映像



所蔵資料紹介 No.138 橘 崑崙 著 『北越奇談』

『北越奇談』は、江戸時代後期に橘 崑崙(茂世)が越後に伝わる珍しい話を訪ね歩いて収集した「読本」です。校訂と序文は当代切っの流行作家、柳亭種彦、さらに挿し絵は葛飾北斎という豪華コンビと組んで、江戸の大手版元である永寿堂から出版されました。

文化9年(1812)に全6巻が刊行されると、娯楽作品に飽き足らない好奇心旺盛な読者をひきつけ、本書は人気を呼び、その後版を重ねました。

奇妙な話や怪談はもちろん、珍しい玉石を数多く取り上げ、崑崙が描いた図を付しています。

崑崙は宝暦11年(1761)ころ、寺泊で誕生しおもに蒲原地方で暮らしたとされ、晩年は三条に居住しました。

崑崙という名称は中国の西方の山岳で、そこは神話や伝説に富む地とされています。中国の古典『山海経』は、奇怪な話が多く、崑崙山についての由来もみられることから、崑崙が親しんでいたものかも知れません。

本書には、長岡にかかわる興味深い話がいくつ



も含まれています。蒼柴明神の麓の中沢村にある清水が夏の土用になるとあふれる話、長岡藩中島氏がマムシの解毒石を持っている話、三宅村(妙見)の赤壁には数万の貝石がみえる話、寺泊から出土した白色の勾玉の話(写真)、そして五合庵に住む奇僧了寛(良寛)の話もあります。当時の江戸の読者に、私たちの地元の話が広く紹介されていたのです。

崑崙翁の語る越後の不思議話に興味を抱いた方は、活字本でお楽しみ頂けます。

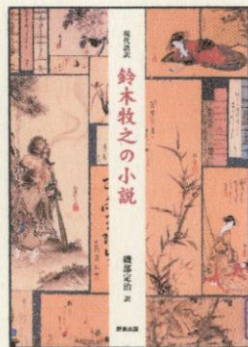
(小熊よしみ)

越後文学さんぽ ～新潟出身の著者をクローズアップ～

鈴木 牧之 (すずき・ぼくし) (1770-1842)

江戸時代後期の商人、随筆家。明和7年1月27日生まれ。越後塩沢で家業の縮み仲買商をいとなむ。俳諧、書画にのしみ江戸の文人と交遊。山東京山の協力で雪国の民俗・生活の記録『北越雪譜』を出版。天保13年5月15日死去。73歳。通称は儀三治。別号に秋月庵、螺耳。著作はほかに『夜職草』『秋山紀行』など。

著者紹介：『講談社日本人名大辞典』講談社より



『現代語訳 鈴木牧之の小説』
鈴木 牧之／著
磯部 定治／訳 野島出版

今回紹介する資料は、『北越雪譜』で知られる鈴木牧之の小説集です。収録されている作品は、「小説 広大寺躍」「塩冶判官一代記」「戯作 秋山紀行」の3作です。現代語訳されていますので、時代小説の感覚で気楽に読むことができます。先の2作については、対立する登場人物たちが、実は血縁であったり、元をたどると主従関係であったりと、話の設定があまりにも旨く出来すぎの感がありますが、県内各地の地名、実在人物、催し物も出てきますので、最後まで物語を楽しむことができました。

「戯作 秋山紀行」は、もちろん実録の「秋山紀行」を土台にした作品なので、両者を読み比べてみるのも一興です。実録には無かったエピソードや、行程の違いが、どう表現されているかが気になるところです。3作とも、牧之の生存中には出版されることがなかったのが残念です。(徳永 馨)

不可思議、謎、怪奇……。
秋の夜長にミステリーは
いかがでしょうか？

ミステ

リ

ー

ミステリの名書き出し100選



『ミステリの名書き出し100選』

早川書房／編 早川書房

ミステリにおいて重要視されるという書き出し文。本書は著名なミステリ作家100人の100点の書き出しを紹介しています。読者を一気に物語の世界へ引き込ませる手法をぜひご堪能ください。ミステリ作品の発掘にもどうぞ。 (中川 寛子)

『キムラ弁護士、ミステリーにケンカを売る』

木村 晋介／著 筑摩書房

楽しく読み終えたミステリー、でも「ん？何か違う」と違和感が残ることも…。著者はそんなミステリーのモヤモヤに法律的視点から鋭い「ツッコミ」を入れています。「小説と現実とは…」ではありますが、共感する部分も多い一冊です。 (岩本 純子)



『蜜蜂のデザート』拓末 司／著 宝島社

タイトル、そして表紙からにじみ出るスイートな雰囲気にはそぐわない連続食中毒事件。食品を扱う人々の様々な心理が描かれています。登場するデザートの描写がとても美味しそうなので、読書の秋・食欲の秋を楽しむ一冊としていかがでしょうか。 (横山知加子)



『春にして君を離れ』

アガサ・クリスティー／著 中村 妙子／訳

早川書房

自分が見てきた家庭は本物だったのか。家族との日常に秘めているお互いの思いは真実か。主人公の主婦ショーンを自分の事のように感じ、わが身を振り返りたくなる方もいるのではないのでしょうか。ミステリの女王とよばれるアガサ・クリスティーの作品の中では異色と言えます。 (井口 麻子)

『三毛猫ホームズの推理』

赤川 次郎／著 光文社

人気シリーズ三毛猫ホームズの第一作目です。主人公 女性恐怖症の片山刑事が、引き取るようになった三毛猫ホームズとともに事件の謎を解いていくお話です。事件のヒントを示すホームズの行動や、登場人物とのやり取りにユーモアがあり楽しめます。

(大関 健人)

イベントガイド (10月～12月) ※全て参加無料

【読者のつどい】 互尊文庫1階 児童室 19:00～20:30

テーマの本の感想を話し合い、人生観や文学論などを自由に語り合う会です。

10/25(金)『吾輩は猫である』夏目 漱石／著

11/22(金)『みんなの秘密』林 真理子／著

12/27(金)『沈黙』遠藤 周作／著



【子どもの本を読む会】 中央図書館2階 講座室2 10:00～

子どもの本に興味がある方が集って感想等を語り合う会です。

10/9(水) テーマ「ハンディキャップのある子どもとともに」

11/13(水) テーマ「いのちを食べる」

12/11(水) テーマ「映画化された本」

【映画会】 中央図書館2階 講堂 14:00～

10/1(火)「裸の大將放浪記」(1981年 日本) 120分

10/20(日)「めぐみへの望い」(2010年 日本) 120分

11/6(水)「たそがれの維納」(1934年 オーストリア) 100分

11/22(金)「海角七号」(2008年 台湾) 130分

12/8(日)「世紀のドキュメント真珠湾攻撃」(2001年 日本) 40分

2本立て 「パールハーバー」(1991年 日本・アメリカ) 88分

12/18(水)「私の頭の中の消しゴム」(2004年 韓国) 117分

【読み聞かせボランティア養成講座 第2回】

中央図書館2階 講堂 14:00～16:15

内容:「子どもと物語」～メディアを超えるもの～

期日:10/27(日)

講師:斎藤 博夫氏(児童文学作家)

定員:180人(先着)

申込:10/8から中央図書館窓口・電話・電子申請で
受付開始



図書館ニュース

◆第一法規 法情報総合データサービス

D1-Law.com がリニューアル

中央図書館でご利用いただける同サービス。用語によるクロス・サーチ(横断検索)ができるようになるなど新機能が増え、デザインも新たに全面リニューアルしました。日本の法令・判例の検索等に、ぜひご活用ください。ご利用は、7番カウンターでお申込みください。

◆長岡ゆかりの児童文学作家

斎藤博夫氏のお話は、必聴です

10月27日に開催するボランティア養成講座の講師が、斎藤博夫氏に決まりました。(詳細は左欄参照)

斎藤氏は、新潟市に生まれ、小学校から高校までを長岡で過ごしました。「グリックの冒険」で日本児童文学者協会新人賞を、「冒険者たち—ガンバと15ひきの仲間」で国際児童年特別アンデルセン賞優良作品、続編「ガンバとカワウソの冒険」で野間児童文芸賞を受賞しています。また、福音館書店で長く児童書の編集に携わりました。

本講座では、斎藤氏のグローバルな視点から、子どもと読書の関わり等についてお話いただく予定です。子どもの読書活動に興味のある方、ボランティア活動に参加している方、これから参加したい方も、ぜひお集まり下さい。



市内図書館と栃尾美術館の休館日

中央図書館	☎32-0658	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日(土日祝と重なった場合は開館) 特別図書整理期間 年末年始(12/31～1/2)
互尊文庫	☎35-7981	
西地域図書館	☎27-4900	毎週木曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間 年末年始(12/29～1/3)
南地域図書館	☎30-3501	
北地域図書館	☎22-7100	
中之島地域図書館	☎61-2165	
寺泊地域図書館	☎75-5159	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 毎月の末日 特別図書整理期間 年末年始(12/29～1/3)
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	☎0256- 97-2497	
栃尾地域図書館	☎53-3005	
文書資料室	☎36-7832	互尊文庫と同じ
栃尾美術館	☎53-6300	毎週月曜日(祝日の場合は翌日) ※展示替等による臨時休館あり 年末年始(12/28～1/3)

平成25年10月1日発行

編集・発行 長岡市立中央図書館

住所 長岡市学校町1-2-2

編集員 長瀬 貴子 諏佐 志保 河田 利美
高橋 知香 高橋 真弓

メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

HPアドレス http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp

印刷 株式会社 北越時報社